

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H03578

研究課題名(和文) アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究

研究課題名(英文) Environments and linguistic change in the Altaic languages

研究代表者

久保 智之 (KUBO, Tomoyuki)

九州大学・人文科学研究院・特任研究員

研究者番号：30214993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,200,000円

研究成果の概要(和文)：アルタイ諸言語(チュルク諸語・満洲トゥングース諸語・モンゴル諸語)を対象とし、環境の変化(言語外的要因)と言語の変容の関係を探求した。現地調査(言語構造および言語外的な環境の観察)と文献言語の調査研究により、ユーラシア大陸各地におけるアルタイ諸言語の言語変容の事例を、かなりの程度、収集・集約した。言語の変容に影響する要因として、3つの環境の変化(人の移動・都市化・宗教の導入)を中心的観点とし、主に前2者についての研究を蓄積し、まとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代世界にあっては、話者数の少ない言語は消滅の危機に瀕しており、6千とも7千とも言われる言語数は、急速に減少しつつある。消滅せずとも、諸言語は種々の変化を見せている。他方、諸言語を取り巻く環境も急速に変化しつつある。言語変化と環境の関係を探求することは、人文学の重要な課題のひとつであると言える。本研究課題は、アルタイ諸言語と呼ばれる言語を対象に、「人の移動」「都市化」「宗教の導入」という3つの観点から、言語変化と環境の関係を探った。

研究成果の概要(英文)：Based on the data on so-called Altaic languages, this research project aimed at investigating various relations between: (a) language change and immigration, (b) language change and urbanization, and (c) language change and the introduction of a religion.

研究分野：言語学

キーワード：アルタイ諸言語 環境の変化 チュルク諸語 モンゴル諸語 満洲トゥングース諸語 移住 都市化 宗教の導入

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

言語研究では、主として言語形式のみが議論され、言語の変容には非言語的な要因が存在することが自明とされながらも、実証的な形では研究がされてこなかった。他方近年、言語の変容をもたらす様々な非言語的要因、例えば、ランドマークとしての自然環境（地理的知識・方向の認知）、ヒトの事態把握や知識の在り方（百科事典的知識・フレーム的意味）、宗教による認識の相違、社会制度（特に言語政策）、社会構造（文語と口語それぞれの内部でのスタイル差・発話のコンテクスト）、談話参加者の知識状態（モダリティや証拠性）などに注目した研究手法が、次第に成果を積み重ねつつある。

## 2. 研究の目的

本研究課題ではアルタイ諸言語を研究対象とし、人間言語の変化の要因として、言語外的な環境がどのように影響しているのかを、具体的かつ実証的に解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

言語変容に影響する要因として以下の3つの環境の変化を中心的観点とした。

- (a) 人の移動とそれに伴う周辺環境の変化
- (b) 都市化（生業・生活環境の変化、定住化、教育）
- (c) 宗教の導入（仏教、イスラム教、キリスト教）

これらの環境の変化と、以下に示す4つの、言語のダイナミックな諸側面との関係を解明することを目指した。

- [i] 移動・方向表現（移動表現、授受表現、空間的参照枠）
- [ii] 対人的・社会的表現（指示表現、人称と呼称、敬意表現、親族名称）
- [iii] 時間的・認識的表現（時制と時間表現、モダリティと証拠性）
- [iv] 述語の諸相（補助動詞、文末詞、イントネーション）

## 4. 研究成果

アルタイ諸言語（チュルク諸語・満洲トゥングース諸語・モンゴル諸語）を対象とし、環境の変化（言語外的要因）と言語の変容の間を探求した。現地調査（言語構造および言語外的な環境の観察）と文献言語の調査研究により、ユーラシア大陸各地におけるアルタイ諸言語の言語変容の事例を、かなりの程度、収集・集約した。言語の変容に影響する要因として、3つの環境の変化（人の移動・都市化・宗教の導入）を中心的観点とし、主に前2者についての研究を蓄積した。

2020～2022年度は、コロナ禍にあり、海外調査がほとんど実施できなかった。しかし、これまでの研究を振り返りつつ、成果物を多く出版することができた：ユーラシア言語研究シリーズ（CSEL）第23巻として、『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』と題する冊子を編集し、2021年度末に刊行した。13名の、研究協力者を含む研究者からの投稿があり、査読を経て、水準の高い論考を収録することができた。言語研究に一定の貢献ができたと考える。ほかにも9点の「図書」を刊行した。

具体的な研究成果を挙げる：

#### (1) シベ語の研究 I

シベ語、満洲語、現代満洲語の3者を比較対照し、音韻論的な差異を明らかにするとともに、移動による言語環境の変化がもたらす音韻論的な対立の出現・消失の可能性について考察した。シベ語は、中国東北部から現在の新疆ウイグル自治区に移動させられた(1764年に到着)シベ族が、現在に至るまで話している満洲語の方言である。新疆に移動させられた結果、ウイグル語やカザフ語というチュルク諸語と接触することとなった。のどの奥で調音される口蓋垂音と軟口蓋音の対立に着目すると、シベ語は十全な対立を示すが、満洲語は部分的な対立にとどまり、現代満洲語に至っては、対立が全くない。この事実は、言語接触が新たな対立を出現させた可能性(シベ語の場合=ウイグル語やカザフ語との接触)や、対立を消失させた可能性(現代満洲語の場合=漢語との接触)を、強く示唆している。

#### (2) ドルガン語などの研究

人間の移動に端を発し、必然的に生じる言語の諸相について、特に北ユーラシアを中心に国内外の研究者と共同研究・共同出版や検討の場を共にするなどした。具体的には、ロシア科学アカデミー東洋文献研究所の I.F.ポポヴァ所長並びに復旦大学の高田時雄教授を招聘し、キャフタでかつて使用されていたロシア語ピジン(キャフタ交易言語)についての講演を企画し、人の移動に伴う異民族接触時に生じる便宜的な言語の具体例について知見を深めた。また、異系統言語話者等の連合により形成された可能性のある極北のチュルク系小言語ドルガン語の20世紀の変遷について、帝政ロシア時代の調査資料に基づいて研究を行なった。さらに、この研究を言語生態の面から捉え直した。また、ロシア教育大学附属北方民族研究所の A.A.ペトロフ教授の提案により、『北方研究者総覧』を共同編集し、出版した。同書はシベリア諸民族出身で主に20世紀後半から今日に至り活躍した160名を越える研究者等(主には言語文化研究分野)の文献目録的要素も含み、20世紀前半以前とは大きく環境を変えた北方諸民族言語文化の研究動向を概観する上でも貴重なデータ集となった。

#### (3) 中期チュルク語の研究

中央アジアにおける中期チュルク語の発展を、特にペルシア語から翻訳された文献を中心に考察した。具体的には、最初期(14世紀)の翻訳文献にあたる『ホスロウとシーリーン』の導入部分のペルシア語原作との対照を踏まえた新たな本文・注釈を提出し、あわせて言語特徴に関する従来の記述の見直しを行なった。その結果、文法面でのいわゆる「オグズ要素」、すなわちチュルク語分布域の西南に位置する諸言語と共通する文法的な特徴が、実際にはそれほど顕著ではないことが明らかになった。さらに副動詞  $-(i)p + turur$  に由来する形式の用法をいくつかの文献の比較を通して検討し、現在完了用法から証拠性用法への発展の過程の一端を示した。

#### (4) サハ語とトゥバ語の研究

第1に、文タイプと話し手の認識に着目する研究を行なった。まず疑問詞疑問接辞の用法に関するサハ語とトゥバ語の相違点を明らかにし、さらにトゥバ語の証拠性を表わすとされる接辞の用法を話し手・聞き手の認識から捉え直すことにより解明した。第2に、形態的単位と形態法の類型論に関する研究を行なった。言語類型論の観点からサハ語・トゥバ語の形態法における膠着性・複統合性の度合いを測り、他の北東ユーラシア諸言語との対照により位置づけた。第3に、話し手の認識に関わる文法カテゴリに関する研究を行なった。サハ語では過去時制を表わす3つの形式の使い分けに部分的に証拠性が関与していること、トゥバ語では証拠性に加えて自

己性も関与していることを示した。

#### (5) トルコ語の研究

ベルリンのトルコ系移民のトルコ語をイスタンブールで話されるトルコ語と比較しつつ、移住という社会的変化が言語に与える影響について考察した。指示詞を言語的変数として実施したアンケート調査の結果、いずれのトルコ語変種も内部に豊富な多様性を含んでおり、集団の間の差より個人間の差のほうがより顕著であることが推測される結果となった。一方、ドイツ在住の移民の人々が話すドイツ語の特徴からは、母語の違いを超えた、いくつかの共通の簡略化を観察することができた。

#### (6) トルコ語、ウイグル語などの研究

トルコ語、ウイグル語、アゼルバイジャン語、ウズベク語を中心に主に動詞+動詞から構成される用言複合体の融合度に着目し、言語の変容に影響を与えると考えられるヴォイス接辞の生起する位置などのいくつかの基準に関する具体的な提案を行なった。また、言語の事態把握表現であるナル的表現とそれを表わす補助動詞に着目し、その分布状況を分析することにより、言語構造の変化の影響を数値化することを試みた。その結果、同じ翻訳テキストであっても補助動詞が出現する一致の度合いは、トルコ語 > アゼルバイジャン語 > ウズベク語 のように異なることがわかった。このように、言語コミュニティの宗教化に伴う言語変容を具体的に捉えるための基礎的な方法論を整備した。

#### (7) 中国領内のブリヤート語とハムニガン・モンゴル語の研究

ロシアから中国領内に移住したブリヤートの言語（シネヘン・ブリヤート語）とロシア領内のブリヤート語とを比較対照し、移住前にロシア語から借用されたと推測される語彙が名詞に見られること、中国領内移住後に基本的な語彙の交代が起こっていること、中国語からの借用語彙のなかには派生接辞なしに動詞語幹として機能するものがあり、このことが今後ブリヤート語形態論に影響を与える可能性があることを示した。ハムニガン・モンゴル語についてはブリヤート語と多くの語彙を共有しているが、動詞bol-（ブリヤート語：「なる」「～してもよい」）がハムニガン・モンゴル語では「～してもよい」の意味にしか用いられず、「なる」についてはol- という別の動詞が用いられる点に関して、他のモンゴル諸語との比較対照と典型的観点から考察し、ol- が後に導入された可能性があること、それには話者のもう一つの母語であるハムニガン・エヴェンキ語の関与が考えられることを指摘した。

#### (8) シベ語の研究 II

満洲語に存在しない、シベ語のテンス・アスペクト形式の一つである -maXe の来源を音韻構造を中心に検討し、周辺諸言語との対応からダグル語の補助動詞語幹 a- の借用に基づくことを示した。シベ族が中国東北部から現在の新疆ウイグル自治区に移動させられた際、ダグル族などの周辺民族も同地に移動し定住していたことが知られており、本研究はシベ語のみが経験したダグル語との言語接触による言語の変容として注目される。

#### (9) モンゴル語の研究

他のアルタイ諸言語と対照させるために、モンゴル語の音韻的・形態的特徴を研究した。特に、アクセント、および、アルタイ諸言語で広く観察される母音調和の観点から、種々の語や形態素

の自立度を記述した。そして、先行研究で同じグループにまとめられている語・形態素群内に、様々な特徴をもつものが混在している様相を明らかにした。

(10) キルギス語の研究およびキルギス語とアルタイ語の対照研究

大崎とアクマタリエワは、キルギス語の補助動詞を中心に研究を行ない、23個の補助動詞のうちこれまでに16個について、単著または共著により構文的特徴や意味用法を明らかにし、詳細な研究を蓄積した。アクマタリエワはさらに、キルギス語とアルタイ語の対照研究を進め、両言語が語彙・形態・統語、いずれにおいても多くの共通点をもつことを示したが、宗教の導入という観点からは、シャーマニズムの伝統の上に、一方はイスラム教を、他方はロシア正教を受容してきたという両言語間の異なる背景が言語にどのように反映されているか、今後も丁寧に観察する必要がある。また大崎は位置関係や時間副詞など相対的な事象把握に関わる表現にも着目して研究を行ない、現象に対して説明可能な仮説を提示した。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 36件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 久保智之	4. 巻 20
2. 論文標題 シベ語の音韻体系と周辺言語の音韻体系 軟口蓋音と口蓋垂音の対立を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 満族史研究	6. 最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保智之	4. 巻 23
2. 論文標題 シベ語の3人称2重所有構造についての覚え書き	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Alexander Petrov & Setsu Fujishiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Russian-Japanese studies of the Tungus-Manchu and Turkic languages of the North (late 20th-early 21st century)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Arctic in a space of knowledge	6. 最初と最後の頁 175-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 菅原睦	4. 巻 24
2. 論文標題 クトゥブ『ホスロウとシーリーン』第7章 - 第9章	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 藤代節(編)『ユーラシア諸言語の動態 言語接触・混成言語・言語生態』(CSEL 24)	6. 最初と最後の頁 147-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原睦	4. 巻 60(2)
2. 論文標題 ナヴァーイーの『篤信家たちの驚嘆』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 279-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原睦	4. 巻 23
2. 論文標題 クトゥブ『ホスロウとシーリーン』におけるオグズ要素について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 111-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原睦	4. 巻 -
2. 論文標題 ことわざ、格言、決まり文句(トルコ)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イスラーム文化事典	6. 最初と最後の頁 100-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SUGAHARA, Mutsumi	4. 巻 -
2. 論文標題 Two Middle Turkic Translations of 'Attar's 'Memorial of the Saints'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Esengu Bitig. Dogumunun 60. Yilinda Zuhul Olmez Armagani	6. 最初と最後の頁 719-731
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 3
2. 論文標題 サハ語における証拠性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語の類型的特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 3
2. 論文標題 トゥバ語における証拠性と自己性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語の類型的特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 -
2. 論文標題 サハ語(ヤカート語)の所有構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念集	6. 最初と最後の頁 214-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 4
2. 論文標題 サハ語とトゥバ語の対格標示と情報構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語の類型的特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 139-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Ebata, Fuyuki	4. 巻 -
2. 論文標題 From Turkic Locative to Sakha (Yakut) Partitive: A contrastive analysis with Tyvan, Tofa, Dolgan, and Evenki.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Aspects of Turkic Languages: Phonology, Morphosyntax and Semantics	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 2
2. 論文標題 サハ語とトゥバ語の語彙対照	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北東アジア諸言語の記述と対照	6. 最初と最後の頁 133-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 23
2. 論文標題 トゥバ語の形態音韻論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 13
2. 論文標題 言語類型論から見た日本語の動詞形態法と統語的派生	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語の普遍性と個別性	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 12
2. 論文標題 チュルク語北東語群の接辞頭子音交替	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 69-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ebata, Fuyuki and Arzhaana Syuryun	4. 巻 32
2. 論文標題 A contrastive study of WH-question suffixes in Sakha and Tyvan. Altai Hakpo	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Altai Hakpo	6. 最初と最後の頁 157-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 5
2. 論文標題 サハ語・トゥバ語・キルギス語の非過去時制と進行表現	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語の類型的特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 151-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 3
2. 論文標題 サハ語とトゥバ語の副動詞の用法概観	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北東アジア諸言語の記述と対照	6. 最初と最後の頁 109-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 27
2. 論文標題 サハ語： 特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 語学研究所論集	6. 最初と最後の頁 471-546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江畑 冬生	4. 巻 27
2. 論文標題 トゥバ語の受動表現	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 語学研究所論集	6. 最初と最後の頁 547-550
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tooru Hayasi	4. 巻 -
2. 論文標題 Eynu	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Encyclopedia of Turkic languages and linguistics online	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林徹	4. 巻 23
2. 論文標題 移民・難民が生み出す非標準的ドイツ語変種に関する覚え書き：統合コース受講者の資料から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗林裕	4. 巻 23
2. 論文標題 チュルク諸語の事態把握表現の数量的比較に向けての試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kuribayashi, Yuu	4. 巻 -
2. 論文標題 Turkish and Uyghur verb-verb complex in contrast.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Verb-Verb complexes in Asian Languages.	6. 最初と最後の頁 455-470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅谷博之	4. 巻 23
2. 論文標題 モンゴル語ハルハ方言の文末助詞の音韻的自立度	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 139-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro	4. 巻 16
2. 論文標題 A Shinekhen Buryat Text: Foals with Golden Breast and Silver Buttocks	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・アフリカの言語と言語学	6. 最初と最後の頁 291-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山越康裕	4. 巻 -
2. 論文標題 シロソゴル・モンソゴル語条件副動詞の「言いさし」(insubordination) の発達	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念集	6. 最初と最後の頁 125-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山越康裕	4. 巻 23
2. 論文標題 移住による語彙借用とその調査手法について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 155-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Mongol KheInii bolokh-toi taarakh khamnigan mongol kheInii khoyor uil ugiin tukhai	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Mongol KheI Zokhiol Sudlaliin Khogjil, Chig Khandlaga	6. 最初と最後の頁 189-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児倉徳和	4. 巻 -
2. 論文標題 シベ語の文法形式の形態論的ステータスー語から接辞へ？ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念集	6. 最初と最後の頁 104-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norikazu Kogura	4. 巻 11
2. 論文標題 Sibe Text: Dancing of Sibe People	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Northern Language Studies	6. 最初と最後の頁 213-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児倉徳和	4. 巻 20
2. 論文標題 シベ語の通時的発展と言語接触の諸相 進行を表す要素を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 満族史研究	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児倉徳和	4. 巻 23
2. 論文標題 シベ語の補助動詞 yawe-の機能とシベ語における テンス・アスペクト・ムード体系の発展	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編)『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』(CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kogura Norikazu	4. 巻 28
2. 論文標題 On the Verbal Suffix -maXe in Sibe: The Development of Its Morphophonology and Language Contact	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Languages of Asia	6. 最初と最後の頁 187 ~ 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/9789004503502_010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohsaki, Noriko and Ebata, Fuyuki.	4. 巻 -
2. 論文標題 Verb-verb complexes in Central and Eastern Turkic languages.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Verb-Verb Complexes in Asian Languages (edited by Taro Kageyama, Peter E. Hook, and Prashant Pardeshi)	6. 最初と最後の頁 430-454
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohsaki, Noriko and Akmatalieva, Jakshylyk.	4. 巻 22
2. 論文標題 Volitionality and Kyrgyz auxiliary verbs kor- and jiber-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 佐藤久美子、児倉徳和 (編) 『チュルク語文法の諸相 音韻・形態統語・意味』 (CSEL 22)	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大崎 紀子	4. 巻 23
2. 論文標題 キルギス語再帰動詞再考 『マナス』と現代語テキストの比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 久保智之、菅原睦、江畑冬生、大崎紀子(編) 『アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究』 (CSEL 23)	6. 最初と最後の頁 95-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohsaki, Noriko	4. 巻 24
2. 論文標題 Function of the third-person possessive suffixes in time adverbial phrases in Kyrgyz.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 藤代節(編) 『ユーラシア諸言語の動態 IV 言語接触、混成言語、言語生態』 (CSEL 24)	6. 最初と最後の頁 127-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤代節	4. 巻 21
2. 論文標題 研究ノート・P.F.ポリャージン『ヤクート語ロシア語辞書』（1877年）より「序」（和訳）、「使用の手引き 最重要事項」（原文テキストと和訳）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藤代節（編）『ユーラシア諸言語の動態IIIー言語の多様性と類型と混成言語』（CSEL 21）	6. 最初と最後の頁 215-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 江畑冬生	4. 巻 2
2. 論文標題 サハ語とトゥバ語の主題マーカー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語の類型的特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原睦	4. 巻 21
2. 論文標題 クトゥブ『ホスロウとシーリーン』第5章・第6章	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藤代節（編）『ユーラシア諸言語の動態IIIー言語の多様性と類型と混成言語』（CSEL 21）	6. 最初と最後の頁 133-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ebata, Fuyuki	4. 巻 10
2. 論文標題 Agglutinateness, polysynthesis and syntactic derivation in Northeastern Eurasian languages.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -



1. 著者名 Kuribayashi, Yuu	4. 巻 1
2. 論文標題 Karsilastirmali Dilbilim Bakis Acisiyla Turkcede Ol- fiili	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Turk Dili Ozel Sayisi	6. 最初と最後の頁 433-437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗林裕	4. 巻 19
2. 論文標題 トルコ語のナル表現 - トルコ語版 創世記から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本認知言語学会論文集	6. 最初と最後の頁 578-583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro	4. 巻 なし
2. 論文標題 A Suffix or a Clitic? The Negative Marker "_gui" in Buryat	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 14th Seoul International Altaistic Conference: Grammars of Altaic Languages	6. 最初と最後の頁 93 - 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norikazu Kogura	4. 巻 なし
2. 論文標題 The organization of modal categories in Modern Uyghur: With a focus on the auxiliary i- and sentence-final particles	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of The 14th Seoul International Altaic Conference	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norikazu Kogura	4. 巻 なし
2. 論文標題 On the bare verbal stem forms in Sibe: Imperative of irrealis?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of The 14th Seoul International Altaic Conference	6. 最初と最後の頁 221-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohsaki, Noriko	4. 巻 21
2. 論文標題 The peculiarity of the Kyrgyz word art 'back' among positional terms.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藤代節 (編) 『ユーラシア諸言語の動態IIIー言語の多様性と類型と混成言語』 (CSEL 21)	6. 最初と最後の頁 125-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamakoshi, Yasuhiro	4. 巻 13
2. 論文標題 Introduction: "Altaic-type" Languages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア・アフリカの言語と言語学	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/92948	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 栗林裕	4. 巻 18
2. 論文標題 「ナル表現」をめぐる通言語学的研究 日本とユーラシアの「ナル表現」 : トルコ語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本認知言語学会論文集	6. 最初と最後の頁 621-626
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗林裕	4. 巻 21
2. 論文標題 バルト・スラヴ語世界におけるチュルク系少数言語 カライム語とガガウズ語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 スラヴ学論集	6. 最初と最後の頁 31-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuribayashi, Yuu	4. 巻 114
2. 論文標題 Verb-Verb compounding in Turkish.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Rouen Meeting: Studies on Turkic Structures and Language Contacts. (Series Turcologica Band 114)	6. 最初と最後の頁 155-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuribayashi, Yuu	4. 巻 13
2. 論文標題 Topic marking in Iranian Turkic.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The 13th Workshop on Altaic Formal Linguistics	6. 最初と最後の頁 179-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SUGAHARA, Mutsumi	4. 巻 22
2. 論文標題 Review of A Turkic Medical Treatise from Islamic Central Asia: A Critical Edition of a Seventeenth-Century Chagatay Work by Suban Qulikhan, edited, translated and annotated by Laszlo Karoly	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Turkic Languages	6. 最初と最後の頁 143-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江畑冬生	4. 巻 1
2. 論文標題 サハ語とトゥバ語の疑問詞疑問接辞の対照	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北東アジア諸言語の記述と対照	6. 最初と最後の頁 167-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ebata, Fuyuki	4. 巻 13
2. 論文標題 Regularity and obligatoriness in Sakha (Yakut). A contrastive analysis with Tyvan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア・アフリカの言語と言語学	6. 最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江畑冬生	4. 巻 9
2. 論文標題 トゥバ語の証拠性を表すとされる接辞-dirの機能：話し手・聞き手の認識からの説明	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計101件 (うち招待講演 26件 / うち国際学会 35件)

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語の音韻体系と周辺言語の音韻体系
3. 学会等名 満族史研究会第35回大会シンポジウム「シベをとりまく環境の変化 歴史学と言語学の視点から」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語の複合語境界や単語連続境界で起こる音韻現象
3. 学会等名 2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語の 3人称所有接辞が親族名称に現れる場合小考
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語の instrumental
3. 学会等名 2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 (Alexandr Petrov), (Setsu Fujishiro) 藤代 節
2. 発表標題 - ( XX - XXI . -
3. 学会等名 " : (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤代 節
2. 発表標題 ドルガン語の悲しみの表現
3. 学会等名 2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤代節
2. 発表標題 『『ドルガン語ロシア語辞書(10-11年生用学習辞典)』(2019年、A.A.Barbolina, N.S.Kudrjakova, N.N.Zharkova、他著)について』
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤代節
2. 発表標題  (1882-1923) 「K.M.ルイチコフ(1882-1923)の辞書にみるドルガン語見出し語彙の諸特徴」
3. 学会等名  (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 チュルク語の動詞形式-p tururと-a tururについて
3. 学会等名 2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 中期チュルク語の動詞形式 -(i)p tur(ur)について - 完了と証拠性との間で -
3. 学会等名 共同利用・共同研究課題「チュルク諸語における情報構造と知識管理 音韻・形態統語・意味のインターフェイス」2022年度第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 いくつかのチュルク諸語における「テイル」表現
3. 学会等名 科研費研究会「混成言語」を通してみるユーラシアの諸言語 - 言語接触と言語生態の諸問題 -
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 小田勝『古代日本語文法』（ちくま学芸文庫2020.5）について 非専門家の立場から
3. 学会等名 LUNCHEON LINGUISTICS
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 クトゥブ『ホスロウとシーリーン』における字余り・字足らず
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 中期チュルク語におけるペルシア語名詞接尾辞-eについて
3. 学会等名 2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 「サハ語の現在から過去を推し量るには」
3. 学会等名 フィールド言語学とフィールド言語学者のダイバーシティ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 サハ語の名詞述語文：動詞句を入力とする派生を中心に
3. 学会等名 第18回言語学分野公開講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ebata, Fuyuki
2. 発表標題 Agglutinateness of Altaic languages in NE Asia and Korean/Japanese from a typological view
3. 学会等名 2020世界韓国語大会（国際学会）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 Ebata, Fuyuki
2. 発表標題 Rethinking the agglutinateness of Korean and Japanese: A typological study through contrastive analysis with Northeastern Eurasian languages
3. 学会等名 韓国言語類型論学会第13回国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 言語研究から関連分野への貢献の難しさ
3. 学会等名 日本シベリア学会第6回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 北東・北西チュルク諸語の接辞頭子音交替
3. 学会等名 2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 言語類型論から見た日本語形態法と統語的派生
3. 学会等名 「宮岡文庫」開設記念特別企画公開シンポジウム「地球規模の言語研究から日本語を再考する」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ebata, Fuyuki
2. 発表標題 Nominal compounds in Sakha (Yakut): Difference between conceptual possessive and referential possessive
3. 学会等名 The 15th Seoul International Altaistic Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 「ユーラシア大語族」説批判：言語から過去を知るには
3. 学会等名 日本シベリア学会第7回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 トゥバ語連結副動詞の非副動詞的用法
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 サハ語・トゥバ語・キルギス語の非過去時制と進行表現
3. 学会等名 言語の類型的特点をとらえる対照研究会 第19回公開発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ebata, Fuyuki
2. 発表標題 Passive and Reflexive Voices in Sakha (Yakut) and Tyvan
3. 学会等名 The 2022 Conference of the Altaic Society of Korea (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 トゥバ語複数接辞の非複数性機能：サハ語集合対格接辞との関連を視野に
3. 学会等名 日本北方言語学会第5回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 トゥバ語形態音韻論と接辞・接語の区別についての試論
3. 学会等名 2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kuribayashi, Yuu
2. 発表標題 Japonya 'da Turk Dilleri Calismalari ve Turkler.
3. 学会等名 Cukurova Universitesi Turkoloji Arastirmalari Merkezi Kultur Evi Etkinlikleri. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kuribayashi, Yuu
2. 発表標題 Cesitli Ulkelerde Turkce Ogretimi: Japonya.
3. 学会等名 4th International Symposium of Limitless Education and Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 チュルク諸語のol-/bol-補助動詞の数量的比較 - トルコ語、ウズベク語、アゼルバイジャン語の翻訳テキストから -
3. 学会等名 第4回AA研チュルク諸語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 チュルク諸語の事態把握表現の数量的比較に向けての試論
3. 学会等名 2020 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 トルコ語の主題化と数量詞遊離の言語類型論
3. 学会等名 大阪府立大学人間社会システム科学研究科での講演 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kuribayashi, Yuu
2. 発表標題 Japonya ' da Kullanilan Turkce Ders Kitaplari .
3. 学会等名 5th International Symposium of Limitless Education and Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 トルコ語における進行表現の文法化のソースについて チュルク諸語内での位置づけ
3. 学会等名 第16回言語類型対照研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 チュルク諸語の分布と進行表現の展開
3. 学会等名 第141回トプカプサロン (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kuribayashi, Yuu
2. 発表標題 Turkish textbooks used in Japan and related problems.
3. 学会等名 6th American Association of Teachers of Turkic Languages (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 トルコ語と日本語の翻訳小説にみられる主題について
3. 学会等名 2021 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kuribayashi, Yuu
2. 発表標題 Japonlara Turkce Ogretiminde Zor Olan Bazi Ifade ve Kelimeler.
3. 学会等名 6th International Symposium of Limitless Education and Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 チュルク諸語のナル的表現の翻訳対照
3. 学会等名 ナル表現研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 言語表現のタイプの対照研究-トルコ語と日本語-
3. 学会等名 2022 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 モンゴル語 bol- に対応するハムニガン・モンゴル語の2種類の動詞
3. 学会等名 2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 「言いさし」の地域差：モンゴル諸語を俯瞰して
3. 学会等名 言語学フェス2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 プリアート語分詞の定動詞化は一方向の変化か：主節述語における定動詞・分詞の「中和」
3. 学会等名 日本言語学会第163回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
2. 発表標題 Mongol KheInii bolokh-toi taarakh khamnigan mongol kheInii khoyor uil ugiin tukhai
3. 学会等名 International Conference on the Current Status and Future Perspective of Mongolian Language and Literature Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
2. 発表標題 Two Khamnigan Mongolian verbs that correspond to Mongolian verb "bolokh"
3. 学会等名 International Conference on the Current Status and Future Perspective of Mongolian Language and Literature Studies. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 榎本武揚が書き取った「蒙古語」はどのような言語だったか？
3. 学会等名 言語学フェス2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 シネヘン・ブリヤート語話者の語りに見られる動詞の過去形 V-zee
3. 学会等名 2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 シベ語の動詞 yawe- について
3. 学会等名 2021 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会 「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 錫伯語和滿語の音韻特徴
3. 学会等名 「清代遷徙政策与文化伝新」国際研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kubo, Tomoyuki
2. 発表標題 Phonological characteristics of Sibe and Manchu
3. 学会等名 From Literary to Vernacular: A Workshop/Symposium on Manchu-Sibe Archives and Language（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kubo, Tomoyuki
2. 発表標題 Velar and uvular distinction in Sibe and Manchu
3. 学会等名 Institute of Asian Studies 及び Prague descriptive linguistics group での講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kubo, Tomoyuki
2. 発表標題 Velar and uvular consonants in Sibe and Manchu
3. 学会等名 Workshop 'Endangered languages in North Asia'（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujishiro, Setsu
2. 発表標題 Profiling Dolgan before its Standardization based on Rychkov 's Card Dictionary ~ Some remarks from pilot survey ~
3. 学会等名 International Conference "Documentation of Languages and Dialects of Indigenous Peoples of Russia" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 チュルク諸語の否定表現から
3. 学会等名 「アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究」第5 回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ebata, Fuyuki
2. 発表標題 Contribution from descriptive and contrastive approach to historical study: A case from the Turkic language family
3. 学会等名 International Workshop: Descriptive and Contrastive Analysis on Languages of Northeast Eurasia 3 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ebata, Fuyuki and Arzhaana Syuryun
2. 発表標題 A contrastive study on the WH-question suffixes in Sakha and Tyvan
3. 学会等名 The 14th Seoul International Altaistic Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江畑 冬生
2. 発表標題 言語類型論・個別言語研究における証拠性：韓国語とトゥバ語を例に
3. 学会等名 言語の類型学的特徴をとらえる対照研究会 第11回公開発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江畑 冬生
2. 発表標題 北東ユーラシア諸言語の膠着性・複統合性と統語的派生
3. 学会等名 日本北方言語学会第2回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江畑 冬生
2. 発表標題 言語類型論と周辺諸言語から見た日本語形態法
3. 学会等名 日本語文法学会第20回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江畑 冬生
2. 発表標題 言語類型論から見たアルタイ諸言語と韓日語の形態法
3. 学会等名 韓国国語学会60周年記念冬季学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林徹
2. 発表標題 トルコ語における指示詞と時間
3. 学会等名 第4回時間言語フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tooru Hayasi
2. 発表標題 The language of the Abdal (Eynu) people in Central Asia
3. 学会等名 International Exhibition "Education and Sports in the Prosperous Epoch of the Powerful State" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 チュルク諸語の動詞複合体
3. 学会等名 大阪府立大学人間社会システム科学研究科での講演(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孫爽・栗林裕
2. 発表標題 日本語の連体修飾表現の習得についての一考察 中国語及びトルコ語母語話者を対象に
3. 学会等名 関西言語学会第44回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
2. 発表標題 A Suffix or a Clitic? The Negative Marker “_gui” in Buryat
3. 学会等名 The 14th Seoul International Altaistic Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 モンゴル諸語の動詞屈折体系の記述を再考する：2014年以降の研究の流れを内省して
3. 学会等名 札幌学院大学言語学談話会第100回記念会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 話者から得られるデータの「正しさ」
3. 学会等名 八戸方言調査事前研修
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
2. 発表標題 Giving the Data Back to the Buryat Community: a ‘Story-telling’ Picture Book with a Smartphone App for Audio Playback
3. 学会等名 International Symposium “Endangered languages in Northern Asia” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 児倉 徳和
2. 発表標題 シベ語と日本語のモダリティの対照：「のだ」と「ている」を中心に
3. 学会等名 『外国語と日本語との対照言語学的研究』第28回研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 児倉 徳和
2. 発表標題 自著を語る：『シベ語のモダリティの研究』について
3. 学会等名 満族史研究会第34回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norikazu Kogura
2. 発表標題 The development of verbal morphology in Sibe and Manchu
3. 学会等名 From Literary to Vernacular: A Workshop/Symposium on Manchu-Sibe Archives and Language（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norikazu Kogura
2. 発表標題 A brief note on the development of verbal morphology in Manchu
3. 学会等名 International Symposium “Endangered languages in Northern Asia” on the occasion of the Unesco Year of Indigenous languages（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norikazu Kogura
2. 発表標題 The Morphological leveling in Manchu and Sibe
3. 学会等名 The meeting of the linguistic group, B02, Yaponesian genome project, grant-in-aid, MEXT (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohsaki, Noriko and Akmatallieva, Jakshylyk
2. 発表標題 Reduction of volitionality and auxiliary verbs in Kyrgyz
3. 学会等名 19th International Conference on Turkish Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大崎紀子
2. 発表標題 キルギス語の位置関係を表す語
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamakoshi, Yasuhiro
2. 発表標題 Influence of Chinese on Buryat in China
3. 学会等名 1st International Workshop on Contact Languages: The East Asia - Indian Ocean Connection, University of Mauritius (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamakoshi, Yasuhiro
2. 発表標題 LingDyTalk: A simple smartphone app applying a numeral recognition technique for audio playback
3. 学会等名 Third International Conference on Documentary Linguistics - Asian Perspectives, RILCA, Mahidol University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 少数言語コミュニティへのアウトリーチを目的としたスマホアプリLingDyTalkの開発とその背景
3. 学会等名 第97回NINJALコロキウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山越康裕・児倉徳和
2. 発表標題 AA研におけるモンゴル諸語関連データベースの構築状況
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「モンゴル諸語における言語変容 外的要因と内的要因」2018年度第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梅谷博之
2. 発表標題 モンゴル語ハルハ方言における諾否疑問助詞 uu を用いた疑問詞疑問文
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 チュルク語の主題の構造と機能
3. 学会等名 言語の類型的特徴をとらえる対照研究会第7回公開発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kuribayashi, Yuu
2. 発表標題 Numeral Quantifier Floating in Turkish and Uyghur.
3. 学会等名 19th International Conference on Turkish Linguistics.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗林裕
2. 発表標題 チュルク諸語の動詞複合体のタイポロジー
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤代節
2. 発表標題 環境が変われば語彙はどう変わるか？ - Porjadin P. のヤクート語辞典（1877年）とRychkov K. のドルガン語彙 -
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 ベルシア語から翻訳された中期チュルク語文献について
3. 学会等名 第80回羽田記念館定例講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅原睦
2. 発表標題 -GAn-Turkicと-GAn形動詞
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SUGAHARA, Mutsumi
2. 発表標題 Orta Turkce ceviri eserler ve Orta Turkcenin gelism sureci uzerine
3. 学会等名 イスタンブル大学文学部における講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ebata, Fuyuki
2. 発表標題 The so-called evidential suffix -dir in Tyvan: Explanation from the perspective of the speaker 's and the hearer 's knowledge
3. 学会等名 韓国言語学会2018年夏季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 トゥバ語の証拠性を表すとされる接辞-dirの機能：話し手・聞き手の認識からの説明
3. 学会等名 日本言語学会第156回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 トゥバ語における疑問詞疑問接辞の否定文での用法：egophoricityからの説明
3. 学会等名 日本言語学会第157回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ebata, Fuyuki
2. 発表標題 Regularity and obligatoriness in Sakha (Yakut): A contrastive analysis with Tyvan.
3. 学会等名 International Workshop: Descriptive and Contrastive Analysis on Languages of Northeast Eurasia 2 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江畑冬生
2. 発表標題 トゥバ語の文末接辞に関する整理
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayasi, Tooru
2. 発表標題 Fifteen years in Kreuzberg : Change in language use and attitudes among Turkish-German Bilingual Students
3. 学会等名 Guest Lecture, Fachbereich Geschichtes- und Kulturwissenschaften, Freie Universitaet Berlin (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayasi, Tooru
2. 発表標題 Between two languages: Responses to questionnaire surveys about language use and language mixing from young Turkish-German bilinguals in Berlin
3. 学会等名 International Symposium: Immigrant and Host Languages in Asia, Pacific and Europe: Facts behind Tidy Theoretical Constructs (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 動詞の不規則変化からみた満洲語とシベ語
3. 学会等名 国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文的変容」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 シベ語のいわゆる語幹命令形について
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 満洲語とシベ語の違い
3. 学会等名 満洲語文語夏期講座「『満文大蔵経』と満洲語文語档案文書の世界」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語と満洲語、現代満洲語の音韻論
3. 学会等名 国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学的変容」中のセッション「シベ語・満洲語から見た人の移動と人文学的変容」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KUBO, Tomoyuki
2. 発表標題 Double possessive costruction in Sibe, Modern Uyghur, and Khalkha Mongolian.
3. 学会等名 2nd International Conference of Sibe Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語音韻論と形態論の一端
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 久保智之、菅原 睦、江畑冬生、大崎紀子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 九州大学人文科学研究院	5. 総ページ数 191
3. 書名 アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究	

1. 著者名 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (科研費による印刷物)、国立ロシア教育大学北方諸民族研究所・国立ロシア北東大学北東諸民族言語文化研究所・ユーラシア言語研究コンソーシアム	5. 総ページ数 578
3. 書名 ) 『北方諸民族出身の研究者・作家・芸術家総覧(書誌便覧)』	

1. 著者名 藤代節	4. 発行年 2023年
2. 出版社 松香堂	5. 総ページ数 372
3. 書名 極北のチュルク系言語の「生態」 K.M.ルイチコフが遺した20世紀初頭のドルガン語辞書からみる言語の形成と消滅の危機	

1. 著者名 栗林裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日中言語文化出版社	5. 総ページ数 184
3. 書名 トルコ語とチュルク諸語の研究と日本語との対照	

1. 著者名 栗林裕	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岡山大学出版会	5. 総ページ数 131
3. 書名 トルコ語話者の言語と文化	

1. 著者名 綿貫哲郎・児倉徳和・加藤基嗣・相原佳之・高井秀招・半田真土・神谷秀二・池田修太郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 452
3. 書名 内国史院档 順治元年 合冊本（附：順治満文実録・元年十月）	

1. 著者名 Barbolina, A.A.), (Zharkova, N.N.), (Kudrjakova, N.S.), (Fujishiro, S.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 -	5. 総ページ数 470
3. 書名 9000 10-11 『ドルガン語ロシア語辞典 9000語 10-11年生用教材』	

1. 著者名 江畑 冬生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 サハ語文法：統語的派生と言語類型論の特異性	

1. 著者名 李林静、山越康裕、児倉徳和、風間伸次郎、山田洋平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 256
3. 書名 中国北方危機言語のドキュメンテーション	

1. 著者名 永山ゆかり、吉田睦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 アジアとしてのシベリア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ユーラシア言語研究コンソーシアム(CSEL)  <a href="http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/">http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	藤代 節  (FUJISHIRO Setsu)  (30249940)	神戸市看護大学・看護学部・教授    (24505)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菅原 睦 (SUGAHARA Mutsumi)  (50272612)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	江畑 冬生 (EBATA Fuyuki)  (80709874)	新潟大学・人文社会科学系・教授  (13101)	
研究分担者	林 徹 (HAYASI Tooru)  (20173015)	放送大学・その他の部局・副学長  (32508)	
研究分担者	栗林 裕 (KURIBAYASHI Yuu)  (30243447)	岡山大学・社会文化科学学域・教授  (15301)	
研究分担者	山越 康裕 (YAMAKOSHI Yasuhiro)  (70453248)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授  (12603)	
研究分担者	児倉 徳和 (KOGURA Norikazu)  (70597757)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授  (12603)	
研究分担者	梅谷 博之 (UMETANI Hiroyuki)  (60515815)	明海大学・外国語学部・准教授  (32404)	
研究分担者	大崎 紀子 (OHSAKI Noriko)  (90419458)	京都大学・文学研究科・教務補佐員  (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	アクマタリエワ ジャクシルク  (AKMATALIEVA Jakshylyk)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 ロシア語ビジン、モンゴル語、シベ語	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 「環境の変化と言語」特別講演会	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ロシア連邦	ゲルツェン名称ロシア教育大学 北方諸民族研究所	ロシア科学アカデミー東洋文献 研究所	(国立法人)タイムル民族造形 センター	
中国	東北師範大学			
チェコ	カレル大学			
ロシア連邦	東洋文献研究所			